

「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせに。

# 福祉くるべ



だって、  
好きなんだもん。

2023  
**05**  
May

特集「地域に根差した居場所と交流の場」

赤い羽根共同募金の報告

一斉雪かきDAY

くろベミニサミット

【編集・発行】 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 令和5年5月1日発行

この広報誌は一部共同募金の助成金により発行されています。

新型コロナウイルス感染症の県内での発生状況で、イベントの中止や休館となることがございますので、ご了承ください。来館時にはマスクの着用、検温、手指消毒を推奨しています。

2023  
**5**

介護予防のための

**元気はつらつ体操教室**

黒部市福祉センター  
TEL.(0765)54-1082

★新規参加者随時受付中

日	月	火	水	木	金	土
30	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6
7	8	9 体操	10 脳トレ	11 アロマ・ヨガ	12 体操	13
14	15	16 アロマ・ヨガ	17	18 自力整体	19 自力整体	20
21	22	23	24 自力整体	25 健康体操	26 アロマ・ヨガ	27
28	29	30 自力整体	31 アロマ・ヨガ	6/1	2 熱中症・ 脱水について	3

- 健康体操**  
樋口 瞬 先生
- アロマ・ヨガ**  
村田 あゆみ 先生
- 自力整体**  
稲田 清美 先生
- 脳トレ**  
くろベ 脳トレクラブ
- 熱中症・脱水について**  
サエラ薬局
- 体操**  
小森 亜希子 先生

■ は休館日  
時間/10:00~11:00  
対象/65歳以上の方  
参加費/300円(入館料のみ)

★令和4年4月より、生き生き倶楽部の予定は広報くろべにて掲載しております。

健康の



できることあるなら  
やらないともったいない

つい面倒くさくなって、ダラダラしていませんか？  
【自分のことは自分です】ことを意識して、  
できるだけ体を動かし、関節に油をさしてあげ  
ましょう！  
1人ではできないことでも、お友達が集まるだ  
けでやる気が出て、楽しくなります。切り替え  
の時期、ぜひ体操教室に参加して、体を動かし  
てみませんか？ いつでもお待ちしております。



今  
月  
の  
表  
紙

石田浜で拾った小さな石をきれいに並べて眺め  
る冬真くん。大人からすると、「そんなもの？」と思  
うことでも、子どもは人目も気にせずに夢中にな  
りますよね。そういう子どもたちの好奇心を大切  
にしてあげたいですね。

福祉・ボランティアに関することは

社会福祉法人 **黒部市社会福祉協議会**

<http://www.kurobesw.com/>



本所 黒部市福祉センター内

〒938-0022 黒部市金屋464-1 TEL.(0765)54-1082(代表) FAX.(0765)52-2797  
TEL.(0765)57-1089(ケアセンター・ホームヘルプセンター) Eメール kurobesw@ma.mrr.jp

宇奈月支所・黒部市東部地域包括支援センター 黒部市ふれあい福祉センター内  
〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山2111 TEL.(0765)65-1165 FAX.(0765)65-9533  
Eメール tobu-houkatsu@kurobesw.jp

私たちは5GOALS for 黒部を推進しています



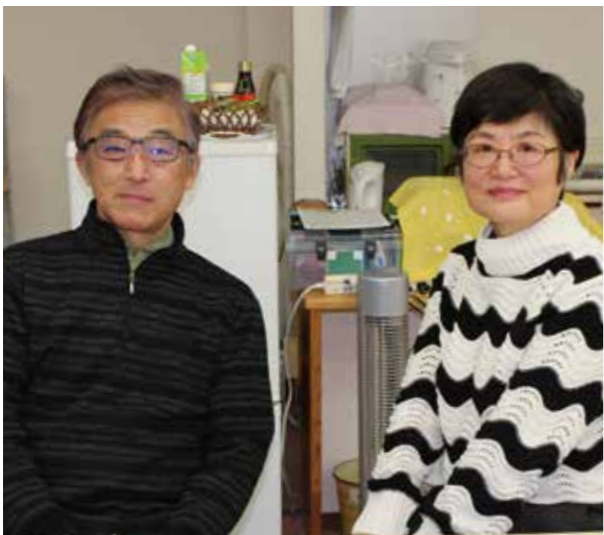
ちよこつと情報 [黒部市の人口] 39,802人 [65歳以上の人口] 12,848人 高齢化率 32.3% R5.3.31 現在

特集 地域に根差した居場所と交流の場

三田市大町商店街で2年前から学習支援ハウス「みんなの家」(以下、みんなの家という)を開設している新村昌治(しんむら しょうじ)さん(68歳)と新村津代子(しんむら つよこ)さん(67歳)夫妻。みんなの家では不登校の子どもたちが自分のペースで勉強したり自由に過ごしたりでき、親御さんも相談することが出来ます。今回は新村さん夫妻の姿から、子どもたちが持つ可能性と居場所づくりについて考えます。

自分たちの経験を役立てたい

岐阜県で大学教員として働いていた昌治さんと、保健師として働いていた津代子さん。「定年退職後は故郷の黒部に帰って何かやりたいなと考えていて、私たちの子どもが不登校だったこともあり、そういったお子さんやご家族の役に立てることをしたいと思いました」と昌治さん。津代子さんは「子育て中はいろいろな悩みましたけど、子どもたちから教わったことが多くて。仕事で教わることもたくさんありましたが、我が子が未来に向けてきちんと夢を持っていてそれを信じてあげることがすごく重要だなと感じましたね」と当時を振り返ります。



昌治さんと津代子さん

我が子の力を信じてあげる

新村さん夫妻のお子さんたちもかつて不登校を経験。当時、昌治さんと津代子さんでは感じ方が少し違いました。「私は保健師としてのプライドもあって、自分の子どもが学校に行かないことが恥ずかしいというか。最初の1年くらいは手を引っ張って学校に連れて行くような感じでした。でも、そういうことをすればするほど子どもの状態が悪くなっていくわけですよ」と津代子さん。親として自分のやり方は間違っているのではないかと思い、同じように悩むお母さんたちと「子どもの権利宣言」の本で勉強会をしました。「子どもにとって居心地のいい家、健康で明るく元気にいれる家であることが大切だし、私たちが子どもを大事に想っていることが伝わったらいいなと考えるようになってきました。それからは、いきいきと働く私の姿を見てくれるだけでいいかなと思うようになりましたね」と話します。

昌治さんは、両親が自営業だったこともあり勉強は自分でやるものだと子どもの頃から思っていました。勤務していた大学でも不登校の学生やいろんな家庭環境の学生がおり、「学校に行く、行かないってそんなに重要なことなのかなくてずっと思っていた。だから、自分の子どもが不登校になっても結構簡単に受け入れられたんです。学校に行かない分学習は遅れるけど、子ども自身も『やる時はやらなきゃ!』っ

て気持ちが出てくるし、遅れを取り戻せることが少しずつわかってきて自信がつくんですよ」と話します。

不登校は悪いことじゃない

みんなの家では、いろんな学年の親御さんから子育ての悩みや今抱えている問題などの相談が寄せられています。子どものやりたいことをまずはサポートし、一人ひとりに合わせた学習支援を行います。中には仕事をしたり自由研究に取り組んだりパソコンで動画を見る子もいます。「不登校のお子さんって最初はすごく悩んで勉強なんて手に付かないと思うんですよ。でも、ある程度気持ちが安定してくると自分でも成長したいと思うときが必ず来るんですよ。そういうときに、子どもたちの思いに添えてあげられるような支援があるべきだろうと。もちろん、ここに来るのも勇気がいると思うし定期的に來ることが苦手なお子さんもいたりします。でも、学年に関係なくその子に合わせて学習を支援するところもあっていいのかなと思っています」と昌治さん。

津代子さんは「自分たちで抱え込んで相談できない親御さんが多いと思います。こちらに勇気を持って来られる方もいますが、自分の子育てが悪かったんじゃないかって思う方も多いん

活動レポート | 2月18日(土)下立地区周辺

共助の力を呼び起こす  
下立地区一斉雪かきDAY

一人暮らし高齢者など支援が必要な世帯の除雪作業を地域と企業、ボランティアが協力して行う「一斉雪かきDAY」を開催しました。当日は約45名が参加して災害ボランティアセンター立ち上げ訓練も兼ねて行い、ボランティア受付と活動報告をスマートフォンから提出することも試みました。

今回は積雪が少なかったためご本人から生活の様子を伺うことが中心となりましたが、雪が多く積もった場所では人員を増やして活動しました。「大雪に備えた体制を確立できた時間だったと思う」と下立自治振興会長の杉本孝成さんは話されました。



訓練が始まったボランティア受付の様子



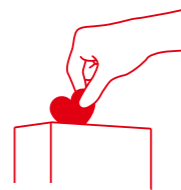
自宅周辺を雪かき

赤い羽根共同募金の報告

たくさんのご協力ありがとうございました。



黒部を想うお金が  
たくさん集まりました



黒部市共同募金委員会では、令和4年10月1日～令和5年3月31日まで「じぶんの町を良くするしくみ」をスローガンに、募金の呼びかけを行いました。また、市内約270か所を超える事業所やお店にも募金や募金箱の設置にご協力をいただき、昨年度を上回る募金額が集まりました。

令和4年度 募金総額 **7,009,001円**

戸別募金	5,080,105円	学校募金	179,598円
法人募金	672,237円	イベント募金	127,577円
職域募金	464,402円	その他の募金	485,082円

あったか雪募金

募金は、除雪活動が困難な世帯に対する支援の仕組みづくりに活用しました。

令和4年度 募金総額 **141,358円**

募金箱(139件)	136,845円
個人募金(2件)	2,713円
イベント募金(1件)	1,800円

災害義援金

令和4年度 募金総額 **230,081円**

皆さまの温かい善意は県共同募金会を通じて被災者へ届けられます。



たくさんの本や辞書などがそろっている学習スペース

です。でも、不登校は悪いことじゃないのでもっと気軽に相談したらいいし、もう少しおおらかに明るく前向きにとらえていいんですよ」と話します。そこで、みんなの家では家族交流会を開催。これまで体験したことや成長した子どもの様子などを親御さんたちが自由に話すことで、お互いに元気づけられています。

自分らしい人生を  
歩めるように

新村さん夫妻のお子さんたちは様々な経験を経て、現在は社会人として働いています。「自信をつけたからって努力が省略できるわけではないし、むしろ、学校に行くよりもたくさんの努力をしなければいけない。だけど、主体性や人生を築いていくうえで決してマイナスではなかったと私たち家族は感じています」と昌治さん。「子どもの頃に『自分はダメだ』と自己肯定感をなくしてしまうと、本人にとって大きなたまらずきになるので、家庭でも地域でも『ダメな子』みたいな見方や接し方は絶対にしてほしくないですね。お子さんたちは能力を持っていて、自分で決めたらすごく意志が強いのでそこを信じてサポートしていくことが大切です。今来ている子たちもとても素晴らしくて成長が楽しみです」と津代子さん。



ゆっくり過ごせる空間

学習支援ハウス「みんなの家」  
住所：黒部市三日市3306  
電話：0765-52-0835  
メール：humanist1204@gmail.com  
営業日：月・火・木・金  
9時～17時



詳しくはこちら



商店街の空き店舗を学習支援ハウス「みんなの家」に

黒部にはみんなの家以外にも、不登校や生きづらさを感じる人への支援や居場所があります。家庭のほか地域の中にも信頼できる人がいて安心できる場所があると、可能性を広げられる子どもたちが増えていくのではないのでしょうか。そして、親御さんたちへの支援も必要です。経済面、心理面、家庭環境などにも目を向けて、子どもを支える、家族を支えることが大切だと思いました。

## 黒部市福祉センターのお知らせ

休憩時間/8:30~16:00 入浴/10:30~15:30

新型コロナウイルス感染症の県内での発生状況で、イベントの中止や休館となることがございますので、ご了承ください。

催し物と休館日のご案内

### 5月

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月は演芸、ステージ発表をいたしません。

休館日 毎週月曜日(1日・8日・15日・22日・29日)  
祝日の翌日のため4日、5日、6日は休館日です。

### 6月

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、6月は演芸、ステージ発表をいたしません。

休館日 毎週月曜日  
(5日・12日・19日・26日)

## ポールウォーキング

12日(金) 13:30~15:00  
場所:石田交流プラザ(現地集合)

26日(金) 13:30~15:00  
場所:大布施公民館(現地集合)

## 囲碁・将棋クラブ

金曜日(12日・19日・26日)9:00~15:30  
場所:黒部市福祉センター 研修室

今月のクラブ



誕生日のお祝いに福祉センターの入浴券はいかがですか?  
11枚綴り・・・3,000円

## 地域福祉のために

黒部市社会福祉協議会に寄付をいただきました  
ありがとうございました

魚谷接骨院 様



にいかわ信用金庫桜井支店・生地支店 様

ご寄付いただいた食料品は、

生活困窮者や自立支援施設等に配布します。

たくさんのご協力ありがとうございました。

## 今月の相談日

### 弁護士と法律相談

■黒部市福祉センター(金屋464-1)  
5月16日(火) 13:30~15:30 / 予約受付5月1日より※先着4名  
相談内容問わず、年度につき  
1人3回までのご利用とさせていただきます。

### 富山県東部生活自立支援センター 生活自立支援相談

■黒部市福祉センター(金屋464-1)  
5月15日(月) 10:00~11:30 / 予約受付5月1日より

新型コロナウイルス感染症の県内での発生状況で、相談員の変更や中止となることがございますので、ご了承ください。



## 活動レポート | 3月15日(水)黒部市民会館

### 地域の特性を活かした 取り組みを学ぶ

小地域福祉活動くろべミニサミット及び地域リーダー養成研修会を開催しました。市内で地域福祉活動を実践している団体の方々(52名)が参加し、浦山地区社会福祉協議会の岡田千春さん、サロン蔵の中野貴代美さんと小幡美智子さんが実践報告をしました。岡田さんは「安心安全の環境づくりに向けて情報を得て、他団体とつながっていききたい」と話され、中野さんは「世代間交流を増やし、石田地区が賑わうようなことをしていきたい」と話されました。

また、「子どもと高齢者が連携しながら地域を支える」と「コロナ禍における居場所づくりの工夫」をテーマに、参加者が意見交換しました。お互いに質問したり活動を称え合ったりと今後の活動に役立つ時間となりました。



活動で工夫していることや悩みを意見交換



(左側から) 岡田さん、中野さん、小幡さんによる実践報告

## 「ふ」だんの「く」らしの「し」あわせ エピソード紹介

市民の皆さまから寄せられた、  
普段の暮らしの中でしあわせを感じた  
エピソードを紹介します。

黒部市の街なかに、高齢者が案外多くいらっしゃることに気づきました。また、街なかでも、空き家がありその処分方法について相談を受けたり、人づてに介護保険の利用について相談を受けたりして、役割があることが生きがいになったと感じました。

まだ子どもが小さかった頃、雨の降る中、車で銀行に行きました。車から降りる際、子どもが濡れない様に抱き上げると、私の頭上に傘が！振り返ると見知らぬおじさんが「濡れたら大変だからね」と傘をさしてくれました。優しさに涙が出そうになりました。この場を借りてありがとうございます。伝えたいです。

福祉くろべではふくしエピソードを不定期で紹介していきます。右記のQRコードまたはハガキにてご応募ください。  
宛先:〒938-0022黒部市金屋464-1 黒部市社会福祉協議会「くろべのふくしエピソード」係まで

